

平成 18(2006)年度
電 気 通 信 大 学
外 部 評 価 報 告 書

平成 19 年 5 月

平成18年度 外部評価報告書 目次

外部評価委員構成	1
外部評価委員会 報告	
評価・提言	3
1. 魅力ある大学になるために	3
2. 教育について	3
3. 夢のある研究を推進するために	4
4. 社会に貢献する大学になるために	4
外部評価委員会 実施概要	
1. 外部評価のスケジュール	7
2. 外部評価の手法・観点	7
3. 外部評価委員会の日程	7
4. 配布資料一覧	8
5. 電気通信大学外部評価委員会 大学側出席者名簿	9
6. 平成18年度評価室メンバー	10

外部評価委員構成

委員長	長尾	真	情報通信研究機構(NICT)理事長
幹事役	中山	良一	東芝総合人材開発(株) 常務取締役
委員	伊賀	健一	日本学術振興会理事
委員	市川	晴久	NTT先端技術総合研究所長
委員	出井	伸之	ソニー最高顧問
委員	前田	隆正	三鷹ネットワーク大学推進機構 理事

. 外部評価委員会 報告

外部評価委員会報告

電気通信・情報処理の分野は20世紀以来、世界の進歩・発展に大きく寄与し、今後も産業競争力強化の重要分野と位置づけられている。電気通信大学は、この分野に特化した大学として、先進的な研究と実践的かつユニークな教育を行い、多くの優秀な人材を輩出して、その実績は高く評価されている。特に、総合的実践力のある技術者教育には定評がある。しかし、このような実績に甘えることなく、21世紀に入り激動する産業構造の変化が進行している中で、電気通信大学の役割も時代の要請に応じて変化・適応せねばならないとの問題意識を強く持ち、基礎データを収集して、真摯に自己点検、評価を行っている。外部評価委員会として、高い実績とたゆまぬ自己改革努力を高く評価するものである。更なる電気通信大学の発展に向けて以下を提言する。

評価・提言

1. 魅力ある大学になるために

産業界で活躍する優秀な技術者を多数、輩出してきた実績を背景として、電気通信大学の基本方針をより具体化して、数年後のあるべき姿を想定し、ミッションを再確認した上で、さらに分かりやすいビジョンを策定するなどして大学の魅力を増すことを期待する。具体的には下記のようなアクションをとっていただきたい。

- (1) 外部へのメッセージ、キャッチフレーズを短くまとめて情報発信する。例えば、「総合コミュニケーションの最先端大学となる」、「電通大は生涯、あなたのパートナーとなります」など。
- (2) 電気通信に関する専門分野で、日本で最高の教育を実施していることを学内外に示し、その実現に向けての組織、人材配置の最適化などへ向けて、更なる努力をする。
具体的には、EC学部、IS独立研究科をより柔軟な組織とするために、人材ポストの部門別固定化を廃するなどの施策を検討されたい。
- (3) 基礎から実際までを徹底してやる大学であることを明確にする。知的財産や産学連携についてのスイスの大学の取り組みなどを参考にされたい。

2. 教育について

産業構造の急激な変化、経済のグローバル化の状況にあって、電気通信大学はこれをむしろ好機ととらえて、教育改革に果敢に取り組んでいただきたい。

- (1) カリキュラムの選択が学生にとって自由になるように、カリキュラムを更に体系的に整備する。
- (2) EC学部の学部教育に対して、大学院のIS独立研究科の教員も全面的に協力する体制作りを、従来の国立大学体制の維持だけではなく、両者の体制を再度検討し、教員の協力体制の構築などの抜本対策も必要である。学部教育と大学

院教育の連携は、教育内容の向上に加え、早期の就職活動による教育課程の細切れ化などの問題解決にも貢献する。

- (3) IS独立研究科の改組については、大学院としての学生確保の観点から、前記の検討を反映するなどして、学部教育に積極的に関わる仕組みづくりを考えて、全学的な見地から改組を考えるべき。
- (4) 大学教育の国際化を目指し、例えばフランス、中国などの同種の大学との学生交流、専門教育における共通的な教育などについて実質的な交流のネットワークを作る。その結果、学生の視野が国際的に広がり、研究の上でも刺激が得られると期待される。
- (5) 経営学など、21世紀の高度専門職業人として必要な教育を行う。博士学位授与が少ない原因を明らかにし、博士授与の条件をもっと透明性の高いものとする、具体的には、学位授与の判断は指導教員による学問的な判断だけではなく、学会発表などの種々の判定基準を導入するなど、他大学の事例を参考にして独自案として公表すること。それにより、社会人を含め博士課程への進学、早期の学位授与を促進する。
- (6) 学生に自信をもたせる教育に力を入れる。そのためにも、教員が自分で起業するぐらいの雰囲気を作り出し、教員自身が時代にふさわしい教育を実践しているという自信を持つようにしていただきたい。

3. 夢のある研究を推進するために

昨今の学生の理工系離れ、電気電子離れは、電気通信大学の存在意義を揺るがす大きな要因となっているが、21世紀となっても電気通信技術は今後もますます産業にとって重要である。電気通信大学としては、高校生、社会の方々にこの分野の魅力を感じてもらうために、夢のある研究を推進することが極めて重要となっている。そのために下記のような活動を期待する。

- (1) 基礎的な学問体系の教育に加えて、最先端の情報通信が10年先、どのように産業界で役立つかを考えて問題設定し、各専攻が横断的に連携して研究に取り組む。問題設定では、学生が自ら考えることを促進するとともに、「夢」を多面的な要素に分解してシステムティックに組み上げるアプローチが望まれる。
- (2) 大学内の組織のうち、一定比率は、問題に対して機動的に研究活動を展開する「空軍」的な組織とする。具体的には、上記の研究科横断的な連携に加え、国内外の企業や他大学との共同研究を組織し、推進することが望まれる。
- (3) 博士の研究テーマの半分ぐらいは、産業界から要請され、学問的にも面白く、斬新なテーマを設定し、産業界と組んでチャレンジングに研究すること。
- (4) 複数教員指導体制を実質的に取り入れて幅広い視野と専門性を持って、学生、特に博士課程の学生の教育研究指導を行うことが望まれる。

4. 社会に貢献する大学になるために

- (1) 電気通信大学の魅力を学生あるいは学生を通じて保護者に発信する。例えば、

ダイレクトメールなどを用いて情報発信し、保護者を通じて社会に電通大の良さ、意義が伝わることを期待できる。一年生からのキャリア教育などのユニークな取り組みを社会に情報発信していただきたい。

- (2) 企業との交流（共同研究、受託研究など）を一層、活性化することで、日本だけでなく、グローバルな観点でも貢献できる大学となっていきたい。
- (3) 地域（特に調布市など）との関係を重視した大学運営をさらに強化する。マネージメント教育（MBA/MOT）、市民教育などへの夜間コースの活用も候補として検討されたい。
- (4) 上記キャリア教育を更に発展し、学生が卒業した後も大学とOBが協力してキャリアコンサルティングすることなどにより、OBをはじめとする社会人向けのサポートを実施することも検討されたい。

国立大学法人電気通信大学長

益田 隆 司 殿

平成19年5月14日

外部評価委員会委員長 長尾 真

. 外部評価委員会 実施概要

1. 外部評価のスケジュール

- ・平成19年2月1日 資料の事前送付
 - (1) 自己点検評価・報告書
 - 電気通信大学自己点検・評価報告書(教育の成果に関する自己点検・評価)
 - 電気通信大学自己点検・評価報告書(研究活動に関する自己点検・評価)
 - (2) 大学資料
 - 基礎データ集
 - 中期目標・中期計画・年度計画一覧
 - 電気通信大学概要
 - 学修要覧
 - a. 電気通信学部学修要覧
 - b. 大学院電気通信学研究科学修要覧
 - c. 大学院情報システム学研究科学修要覧
 - 組織・評価関係主要スケジュール
 - 大学院電気通信学研究科改組概要(H15.4.1)
 - 大学院情報システム学研究科改組概要(H19.4.1予定)
 - (3) 参考資料
 - 我が国の高等教育の将来像(中央審議会答申ポイント)
 - 新時代の大学院教育(中央審議会答申の概要)
 - 中期目標期間の評価に関する検討項目(案)
 - 平成19年度国立大学法人予算予定額の主な内容

・平成19年2月19日 外部評価委員会

2. 外部評価の手法・観点

- (1) 自己点検・評価報告書等に基づき、上記(3)の参考資料
 - 「我が国の高等教育の将来像」(中央教育審議会答申)で示された「大学の機能分化」の方向性
 - 「新時代の大学院教育」(中央教育審議会答申)で求められている「大学院教育の実質化」への取組状況
 - 国立大学法人評価委員会や概算要求に際し財政当局から示された定員充足率の取扱い
 - の観点を踏まえ、「各学科・専攻等ごとに十分な教育の成果があがっているか」を中心に検証を行い、意見をまとめる。
- (2) 外部評価報告書として意見をホームページ等を通じて学外に公表する。

3. 外部評価委員会の日程

- (1) 日 時 平成19年2月19日(月) 10時
- (2) 場 所 本部棟4階 特別会議室
- (3) 日 程
 - 10:00 ~ 12:00 会 議(大学側による説明及び質疑応答)
 - 12:00 ~ 13:00 昼 食
 - 13:00 ~ 15:00 会 議(外部評価委員による協議及び講評)
 - 15:00 ~ 16:00 施設見学

4 . 配布資料一覧

事前配布資料

(1) 自己点検評価・報告書

電気通信大学自己点検・評価報告書（教育の成果に関する自己点検・評価）

電気通信大学自己点検・評価報告書（研究活動に関する自己点検・評価）

(2) 大学資料

基礎データ集

中期目標・中期計画・年度計画一覧

『電気通信大学概要』

『学修要覧』

a. 『電気通信学部学修要覧』

b. 『大学院電気通信学研究科学修要覧』

c. 『大学院情報システム学研究科学修要覧』

組織・評価関係主要スケジュール

大学院電気通信学研究科改組概要（H15.4.1）

大学院情報システム学研究科改組概要（H19.4.1 予定）

(3) 参考資料

我が国の高等教育の将来像（中央審議会答申ポイント）

新時代の大学院教育（中央審議会答申の概要）

中期目標期間の評価に関する検討項目（案）

平成19年度国立大学法人予算予定額の主な内容

当日配布資料

- ・電気通信大学外部評価委員会大学側出席者名簿
- ・平成18年度外部評価委員名簿
- ・電気通信大学外部評価実施要領
- ・電気通信大学の教育組織
- ・「電気通信大学の基本方針」
- ・電気通信大学の教育の成果
- ・大学院情報システム学研究科基礎データ（補足）
- ・外部資金獲得状況について/科学研究費補助金について
- ・H18年度後期課程学生年齢分布
- ・後期課程学生年齢分布
- ・国立大学法人電気通信大学大学院情報システム学研究科の改組について

5 . 電気通信大学外部評価委員会 大学側出席者名簿

職 名	氏 名
電気通信大学長	益 田 隆 司
理事・副学長（総務担当） 事務局長	國 友 孝 信
理事・副学長（研究担当）	石 川 晴 雄
理事・副学長（教育担当）	山 田 修 三
理事（経営・産学官連携担当） （非常勤）	松 田 晃 一
電気通信学部長	萩 野 剛二郎
大学院情報システム学研究科長	高 瀬 國 克
電気通信学部教授 自己点検・評価 WG 主査	湯 川 敬 弘

6. 平成18年度評価室メンバー

所 属 等	職 名	氏 名	備 考
理 事（研究担当）	理 事	石 川 晴 雄	室長
情報システム学研究科 情報システム運用学専攻	教 授	太 田 敏 澄	副室長 評価情報班主査
理 事（教育担当）	理 事	山 田 修 三	認証評価WG主査
電気通信学部 知能機械工学科	教 授	酒 井 拓	学長補佐 グランドプラン検討WG主査
電気通信学部 情報通信工学科	教 授	三 木 哲 也	点検評価・活用班主査
電気通信学部 システム工学科	教 授	由 良 憲 二	目標計画班主査
電気通信学部 総合文化講座	教 授	湯 川 敬 弘	自己点検・評価WG主査
電気通信学部 情報通信工学科	教 授	西 野 哲 朗	
電気通信学部 量子・物質工学科	教 授	鈴 木 勝	
電気通信学研究科 電子工学専攻	教 授	金 子 正 秀	
情報システム学研究科 情報ネットワーク学専攻	助教授	加 藤 聰 彦	
情報システム学研究科 情報ネットワーク学専攻	助教授	阪 口 豊	
情報システム学研究科 情報ネットワーク学専攻	助教授	本 多 弘 樹	